

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471400226		
法人名	有限会社 庄司ケアサポート		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	〒981-0501 東松島市赤井字台94		
自己評価作成日	令和元年6月16日	評価結果市町村受理日	

#### ※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2019年7月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム日和は、開設16年目を迎えます。開所当初から理念「優しさ・気配り・思いやり」を念頭に認知症ケアに努めています。認知症だからとあきらめるのではなく、自分の人生を自分らしく生きて欲しいと常に、社長所長含め職員で話し合い、当たり前な生活が出来る様支援しています。地域ケアにも力を入れており、地域のカフェや行事等にも参加しているのは、勿論の事、必要であれば話し合い準備からも参加させて頂いています。日和のカフェも継続的に行っており、日和の入居者様と地域との交流の場や、悩み相談の場になっており、認知症ケアの拠点になればとの思いも継続しております。職員の人材育成や、働きやすい環境づくりにも努めており、半年に一度の自己評価やストレスチェック等行うほか、可能な限り内外の研修にも参加出来る様にしています。ご家族様や地域の方々の御理解ご協力の元、月々の行事も楽しく賑やかにしております。看取りもかかりつけ医のご協力頂き、住み慣れた日和で最後まで過ごして頂いています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは三陸道や国道に近く、病院、学校、災害公営住宅、店舗などが近隣に点在する地域にある。職員はホームの理念「優しさ、気配り、思いやり」を拠り所に利用者や家族の叶えたいこと、行きたい所などの意向をくみ取り、利用者が自分らしく過ごせるよう支援している。また地域密着型の意義を踏まえた近隣住民や行政との協力関係構築の目的意識は高い。市と共催の認知症カフェ「日和・カフェ」運営や地域の「支え合いカフェ」への協力、多くのボランティアや近隣住民との日常的な交流など地域に着実に溶け込んでいる。運営推進会議や面会時を通して家族とより連絡を密にし、信頼関係を築きながら、介護の質の向上や運営に活かしている。外部評価訪問当日も家族や近所の方が訪れ、家庭菜園で収穫した野菜を持ち寄りながら面会に来る姿が見られた。看取りの実績もあり、かかりつけ医の訪問診療は医療面での利用者や家族の安心に繋がっている。管理者は研修、資格取得支援を手厚く行い、経験や習熟度に応じた職員の人材育成に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH日和 ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日和独自の理念をいつでも目の見える所に掲示し、管理者、スタッフ感で共有し、実践に繋げています。スタッフで理念に対する行動指針を話し合い、実践しています。	法人の運営理念の下、ホームの理念を作成している。毎年、理念について職員で話し合い、理念の実現に向けた行動指針を決め、介護の質の向上に繋げている。理念は玄関、リビング、事務室など職員、来訪者、利用者が見える場所に掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、様々な行事（避難訓練、サロン、夏祭り等）に参加しています。近所の方々とは、顔見知りになり、会えば気軽に日常会話をしたり、日和に寄ってお茶飲み等も行っていきます。	町内会に加入し、地域のお祭り、避難訓練、カフェなどに参加している。フォークダンス、三味線、歌などのボランティアや園児の訪問もある。月1回の「日和・カフェ」には地域住民が多く来訪し、馴染みの関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域問わず認知症の理解や啓蒙活動になる事を期待し、継続して日和カフェを毎月第四土曜日に行っています。悩みや相談にのり、必要な所に繋げています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、入居者様始め、市担当者、町内役員、民生委員、ご家族様の参加頂き、年6回開催しています。地域の情報を頂いたり、ご家族様の意見を反映させ、サービス向上に努めています。	奇数月に開催し、利用者、家族、町内会役員、民生委員、地域住民、市職員が参加している。行事や事業報告の他、市からの情報提供や家族の要望や意見も話し合われるなど実効性のある会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の課題や、地域の課題など積極的に相談に乗って頂いています。月1回のカフェ等の参加も有り、協力関係を築く様取り組んでいます。	運営推進会議には毎回市担当者が参加し、日常業務の相談も行うなど連携が図られている。随時市の研修などの案内もある。市担当者は月1回の「日和・カフェ」にも参加しており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、自由に庭に出て、花に水をやりたり、草取りしたり、散歩したりと、天気の良い日は外で過ごす事が多いです。身体拘束については、管理者、スタッフ間で研修し、常に見守り、所在確認徹底し、拘束のないケアを心掛けてます。	高齢者虐待や身体拘束排除の研修を実施し、特にスピーチロックに注意し、ミーティングで確認したり問題行動には即注意をするなど、利用者の尊厳を損ねないケアの実践に努めている。外出傾向を把握し、利用者にさりげなく寄り添い見守っている。施錠は19時から翌朝7時半であり、日中は玄関の扉を開けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の入浴により、身体の確認を行い入居者様の少しの傷も見逃さない様努めています。虐待についても内外の研修に参加し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援については、繰り返し話し合い、日々の業務に活用しています。制度については、学ぶ機会があれば参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学して頂き、契約時には、十分な説明を行い理解、納得頂ける様にしています。積極的な質問がなくても、こちらからも質問や疑問に思う事はないか伺う様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外にも、毎月集金を直接ご家族に持参して頂き、その都度利用者様の状況報告し、ご家族が屈託なく意見を出しやすい様心掛け出た意見は反映しています。	利用料持参時や運営推進会議(家族全員に案内)、面会時などに意見や要望を聞いている。頻りに面会に来る家族が多く、花壇作りや雑草取りの協力も日常的に行われるなど、意見が出しやすい環境が築かれている。第三者委員も委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには、社長、管理者スタッフ全員参加し、職員からの意見や提案を聞き反映しています。スタッフからの要望で、スタッフ会議をしたり、行事に対する意見も聞き共に取り組んでいます。	月1回のミーティングや年1回の社長面談を通して、意見を聞いている。また随時、スタッフ会議も行い、管理者は職員の意見を反省するように努めている。資格取得支援も手厚く、受験料、食事代、交通費などを支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、ストレスチェックを行い、社長との個人面談を設け、意見を言いやすい風通しの良い職場作りをしています。職場環境や労働時間については、常に話し合い改善出来る様取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外に問わず、積極的に研修を受ける機会を確保しています。2年目を迎えるスタッフより、他の施設に実習に行きたいとの事で、実施しています。資格取得の推奨も継続的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りの運動会に参加したり、行政主催の研修会にも積極的に参加しています。相互で自社で行うカフェや研修にも可能な限り参加したり、参加頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に十分アセスメントを行い、ご本人の意向を十分取り入れられる様しています。入居前に職員間で情報の共有化に努め、不安なく安心して頂ける様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご家族にもアセスメントを行い十分に要望等傾聴する様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する時点で、その時必要な支援を見極める為に、その都度アセスメントし、ご本人、御家族と話し合い対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者1人1人の人格を尊重し、出来る事を探し最大限に生かしながら、必要な所は職員が支え、手助けし、お互いに信頼し毎日の生活を共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、御家族の気持ちを大切に、出来る限り一緒に過ごせる様に工夫し、お花見や夏祭り、敬老会等四季折々の行事にも、ご家族にもお声掛けし、無理なく参加して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等もご家族だけでなく、ご家族の了承のもと親しかった友人、知人とも自由に面会している。地域の行事にも積極的に参加。毎日のドライブも馴染みのある場所を訪れて思い出話に花を咲かせています。	家族や友人の訪問が頻繁にあり、墓参りや理・美容は家族と出かけるなど馴染みの人との関係継続が図られている。利用者の要望があれば、いつでも行きたい場所へドライブの外出支援をしており、利用者の楽しみとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼間のほとんどは、ホールで皆と一緒に楽しく和気藹々と過ごしています。誰か他の人が困っていると、自然に入居者さんが、お互い手助けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族の方も、タオルや古新聞を持って訪ねてきてくれたりしています。退去された方にも時折、連絡を取り、近況聞いたりして、必要時には助言したりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングやカンファレンス、朝夕の申し送り等で、日々違う1人1人の思いを共有したり、思いが伝える事が出来ない入居者様の思いもスタッフ全員で色々考え、希望と意向の把握に努めています。	日常のコミュニケーションを通して、表情や体調の変化に注意しながら利用者の意向の把握に努めている。意向把握が困難な利用者への対応は意思疎通の方法を文書化し職員で共有し支援している。また、生活歴で趣味や嗜好を把握し、本人に合わせて塗り絵や計算ドリルなどを取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にも、ご本人、御家族に以前の暮らしや馴染みのもの等お聞きし、必要に応じては、関係機関から情報を頂き、これまでの経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の一日の過ごし方、心身状態は常にスタッフ間で情報交換を行い、日々の変化にも対応できる様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の一向は勿論、介護計画やより良く暮らす為の課題については、スタッフ1人1人モニタリングを行い、気づきや課題を出し介護計画に反映する様にしています。	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングと見直しを行っている。家族や利用者、医療機関などから意見を聞き、全職員が話し合い作成している。また、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。職員は担当制ではなく全職員が全利用者に関わり支援する体制である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況の把握を、朝夕の申し送りで細かい情報や、変化等も報告する事で情報の共有をしています。個別記録し、気づいた事や工夫も記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のその時々生まれるニーズに合わせ、良く話し合い、既存のサービスにとらわれず、柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、サロン等にもご本人の体調に合わせて参加していますが、積極的に参加しています。地域の方々と顔見知りになり、サロンや行事のお誘いもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、御家族様と検討し、往診頂ける当施設の掛かりつけ医で良いと、了承、同意頂いています。希望があれば、歯科、眼科等受診しています。	訪問診療医が、利用者全員のかかりつけ医である。1ヶ月に1回の訪問診療があり、必要に応じ往診を受診することができる。整形外科などの専門医の受診は家族が付き添い、職員が同行している。受診結果は業務日誌に記録し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での利用者様の変化の早期発見に努め、異常時には看護職に報告、指示仰いでいる。必要時には、掛かりつけ医に相談し、受診か往診頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、個々の状況に合わせて出来る限り早期退院できる様、関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り行っています。入居時に重度化における看取り指針を説明し、重度化した場合は、ご家族様に医師より説明を受け、同意頂いています。スタッフとも何度もカンファレンスを行い、情報や思いの共有しグリーフケアも行っています。	看取り看護についての指針もある。看取りの実績があり、重度化した場合には終末期対応を医師と職員、家族で話し合い、特に夜間帯の申し送りを徹底し、その人らしい最期を迎えられるよう支援している。行政の看取り研修への参加や、かかりつけ医によるターミナルケアの指導も受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時事故発生時マニュアルを常備しています。応急手当、初期手当等AED講習会を受け、実践を身につけています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	火災や地震、水害時の避難訓練マニュアルを作成しています。年2回の避難訓練は地域住民の方々の参加もあります。市の避難訓練に参加し、避難ルートの確認を行い、非常用食料、備品等準備しています。	火災、地震、津波、風水害、原子力災害の避難訓練マニュアルがある。年2回夜間想定での避難訓練を行い、他に地域住民参加の避難訓練を年2回行っている。災害時に備えた避難ルートの確認や住民と共にAED講習も実施している。備蓄は4～5日分あり、消火器、誘導灯などの防火設備点検を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重し、尊厳を守る事を常に意識しています。言葉掛けも、呼び方、声の大きさ、呼びかける位置等意識し、命令口調や赤ちゃん言葉は絶対使わない様徹底しています。	居室に入室の時は、ノックと声がけをし、特に入浴や排泄支援などでは利用者の尊厳を損ねない対応を心がけている。プライバシー保護の研修も実施している。呼び方は入居時に家族や本人に聞いており、名前に「さん」付けが主である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする時には、必ずご本人に声掛けを行い、了承頂いている。拒否する言葉聞かれた時は、ご本人が了承頂ける様言葉掛け工夫し、納得した上で行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせてながら、その日の天候や暦に合わせて過ごしています。天気が良くなってくると外に行きたいと言う声も聞かれるので、散歩したり、庭で過ごしたりする事が多くなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の入浴では、気候に合わせたその日に着たい服と一緒に選んで着替えて頂いています。行事等での外出時や、夏祭りや敬老会等の特別な式に合わせた服装やお化粧もし、おしゃれを楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビや広告等を見て季節の食べ物を食べたいと言われる事多く、可能な限り対応しています。買物に行く時も希望のものを選んで買って来ています。出来る事は一緒に、準備し、片づけも行っています。	食材購入、メニュー作り、調理は職員が行い、利用者と職員は同じ食卓で和やかに食事を楽しんでいる。食事の摂取量を記録するなど、栄養管理も行っている。免疫性を高める野菜を食材に取り入れ、口腔ケアにも留意している。誕生日の特別食やおくずかけなどの郷土食も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良く、美味しく食べれる様季節の物を取り入れています。水分量は個別記録し、確保しています。調理も同じにならない様、献立をたて工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で出来る方も時々、スタッフが歯垢等の確認し、仕上げ磨きを行い清潔保持に努めています。自分で出来ない方お口腔ケアシートやスポンジを使用し、清潔の保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録行い、個人の排泄パターンに合わせて支援行っています。排泄の失敗が有る時は、誘導時間や方法の見直し、パットの当て方等の工夫行い固定せず常に自立に向けた支援を行っています。	排泄チェック表から一人ひとりのリズムを把握し、トイレで排泄が出来るよう誘導支援している。排泄介助時はプライバシーや羞恥心を損ねないように配慮している。トイレは文字と絵で表示し、分かりやすい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心に、便通に良いきのこ類、寒天、バナナ、りんご等毎日摂取出来る様工夫しています。水分や乳製品等も毎日無理なく摂取出来る様工夫しています。午前、午後と体操行い、適度な運動も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴しています。重度な利用者はスタッフ二人対応にて体調に合わせて行っています。入浴する日や時間は決まっておらず、その都度お声掛け行い、好きな時間で入浴しています。	入浴は毎日、時間や湯加減など利用者の要望に応じて支援している。入浴嫌いな利用者にはタイミングを見て声がけしたり、無理のない誘導を行っている。羞恥心に配慮し、バスタオルを肩にかけ、衣類の脱ぎ着を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中楽しく活動し、天気良い日はなるべく屋外で過ごし、天気が悪い日でも、ボール投げをしたり、創作活動等行い夜間気持ち良く眠れる様支援しています。天気の良い日は寝具も干しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ1人1人が使用している薬の目的や副作用、用法、用量について記録や申し送り行い周知徹底に努めています。状態変化の早期発見にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、一人ひとりの得意分野の確認行い、役割分担し、出来る事は十分発揮して頂いています。気分転換になる毎日のドライブや毎月季節に合わせた行事立案し、楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人で買物がしたいと希望が有る時は、ご家族様と一緒に外出し、食事まで楽しんできています。ご家族対応が難しくても、スタッフで個人対応し、買い物や外食等もしています。ご家族と頻りに外泊、温泉旅行も楽しんでいます。先日も松島に行きたいとの希望が有り、全員で、ご家族様と一緒にに行ってきました。	年間計画があり、初詣、お花見、夏まつり、遠足、芋煮会などへ外出支援を行っている。墓参りや外食など家族と一緒に楽しむ利用者もいる。利用者の要望をできるだけ叶え、戸外で楽しく生き生きと過ごせるよう支援している。日常的に職員とドライブで自宅や買い物に行っている。家族、利用者、職員が一緒に松島に宿泊したこともある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来る方は自分で管理しています。事務所で管理している方も、行事や買物、外出時には自分でお金を持ち、計算したり、自分の欲しいものや食べたい物を選んでいきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っている方もおり、自由に電話しています。電話や手紙を書きたいと言われる時には、自由に出来る様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や日差しが眩しくない様、暗すぎない様カーテンや照明で工夫しています。毎日行う掃除は窓を開け丁寧にしています。適宜風通し良くし、外気との差が5度以上ならない様に配慮しています。季節に合わせた絵や、飾り等行っています。	玄関前にあるプランターには、いくつもの鮮やかな花が咲いており季節を感じさせる。リビングの天井が高く、天窓からは柔らかい光が射している。大きい時計やカレンダー、日めくりは見当識に配慮されている。壁には利用者の願いが書かれた七夕の短冊が張られ、和やかな雰囲気である。温・湿度管理は適正に行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆と一緒に過ごせるテーブルや椅子の他にソファを用意してあり、気の合う方々で座って藩士をしたり、1人で集中して好きな番組を見たり、自由に過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人様ご家族様と話し合い、馴染みの物を持ち込み、混乱なく居心地良く過ごせる様工夫しています。仏壇や、位牌を持ち込む方もいます。毎朝夕、お水を供えたりしています。	居室にはベッド、エアコン、クローゼットが備えられ、馴染みのタンス、仏壇、位牌を持ち込んでいる人もいます。壁には家族写真や誕生日のお祝いポスターが貼られ家族的な雰囲気である。職員と一緒に掃除する人もおり、室内はきれいに掃除が行き届き、居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりのお部屋の配置や、飾り物等は個人の馴染みの物を活かしているため、全て異なります。可能な方は自分で衣類の整理等が出来る様配置しています。共有スペースは動線確保し、使用した物は元に戻すなど環境を整え安全性にも配慮しています。		